

資生堂 ストップ安

中国リスクに直面する企業の行方

2023/11/14

11月13日、決算を受け資生堂がストップ安

市場概況 > 資生堂

4,295 JPY

-2,100.00 (-32.84%) ↓ 年初来

11月14日 13:01 JST・免責条項

1日 | 5日 | 1か月 | 6か月 | 年初来 | 1年 | 5年 | 最大



通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2023年2月10日に公表した通期連結業績予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせします。

1. 2023年12月期 通期連結業績予想数値の修正(2023年1月1日～2023年12月31日)

	売上高	コア営業利益	税引前利益	親会社の所有者 に帰属する 当期利益	基本的 1株当たり 当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,000,000	60,000	47,000	28,000	70.08
今回修正予想(B)	980,000	35,000	27,000	18,000	45.04
増減額(B-A)	△20,000	△25,000	△20,000	△10,000	
増減率(%)	△2.0%	△41.7%	△42.6%	△35.7%	
(ご参考)前期実績 (2022年12月期)	1,067,355	51,340	50,428	34,202	85.60

注1. コア営業利益は、営業利益から構造改革に伴う費用・減損損失等、非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いて算出しています。

注2. 2023年12月期 通期想定レート

前回発表予想: ドル=130円、ユーロ=140円、中国元=19.0円

今回修正予想: ドル=140円、ユーロ=150円、中国元=19.8円

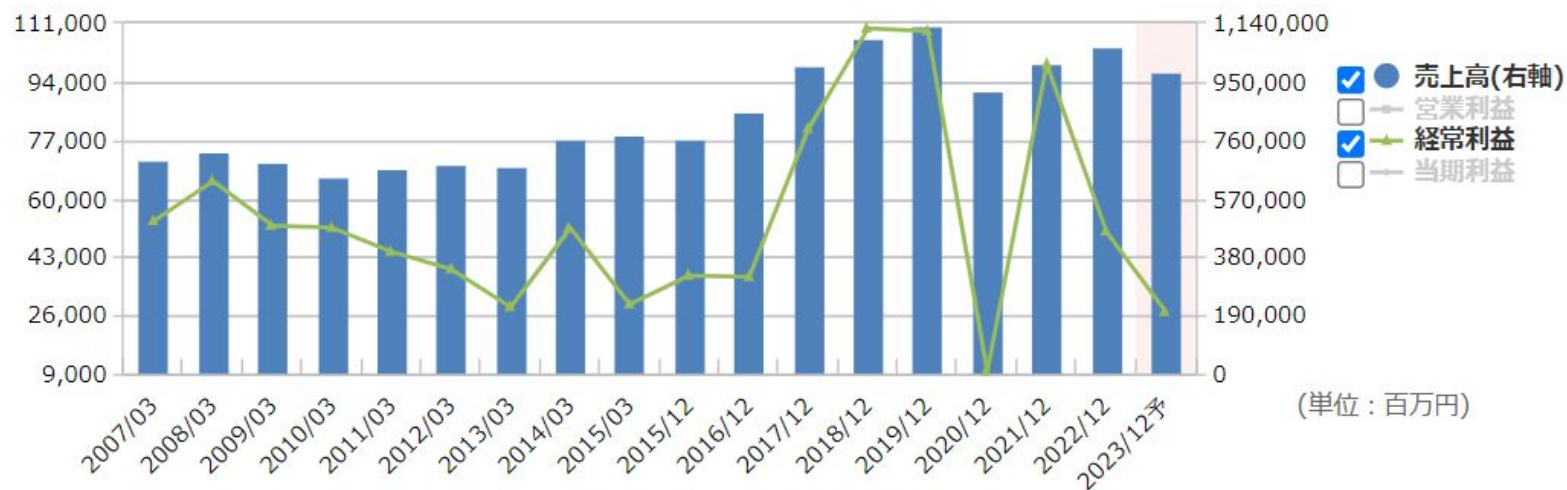
原因は中国事業

2. 修正の理由

売上高については、主にトラベルリテール事業、中国事業において、規制強化、旅行者を中心としたビジネスモデルへの回帰・市場正常化の流れを受けた流通在庫調整のほか、中国における景況感の悪化やALPS処理水の海洋放出後の日本製品買い控えによる影響により、実質ベース(為替影響および事業譲渡影響を除く)では前回予想を下回る見込みです。一方、円安による為替換算差の影響もあり全体としては概ね前回予想どおりとなる見込みです。

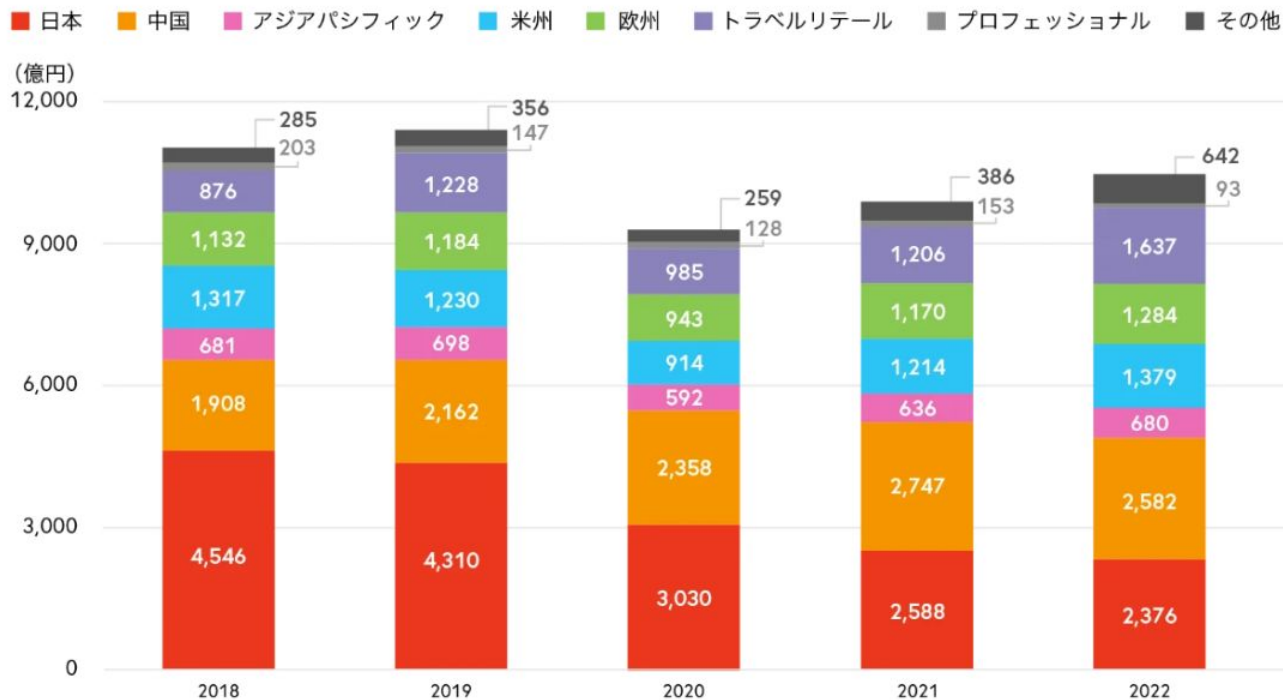
コア営業利益については、売上高の実質ベースでの減少により前回予想を下回る見込みです。税引前利益および親会社の所有者に帰属する当期利益については、コア営業利益の減少のほか、不動産売却に伴う固定資産売却益 100 億円および大阪府内自社 2 工場の統合に係る減損損失 60 億円を織り込んでいます。

通期業績推移



中国への依存度を高めてきた資生堂

報告セグメント別売上高*



中国事業に吹く逆風

原発処理水に端を発する日本バッシング
不動産バブル崩壊による中国経済の低迷
中国現地メーカーの台頭でシェア低下



売却した日用品事業が好調の皮肉

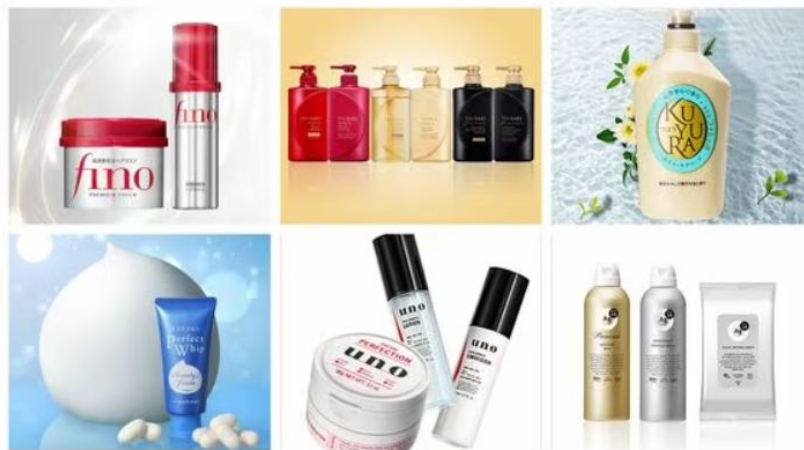
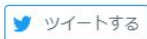
資生堂に売却された「TSUBAKI」「uno」「fino」意外な健闘

営業利益率は10%超、カネボウ元社長が舵取り役

伊藤 退助：東洋経済 記者

+ 著者フォロー

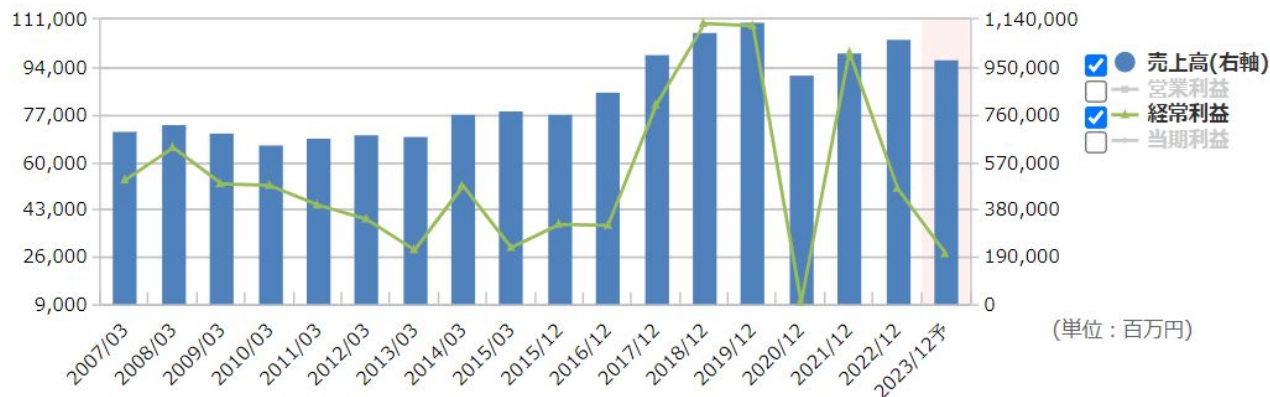
2023/07/01 5:30



2021年に資生堂が売却した日用品事業には「TSUBAKI」「uno」「fino」などお馴染みのブランドがずらりと並ぶ（写真：ファイントゥデイHPより）

希望が見えない...

「**選択と集中**」を掲げて、成長力と収益性が高かった**中国市場**にベットした同社。コロナ禍は厳しい期間だったが、それが終わればという雰囲気もあった。しかし、蓋を開けてみるとコロナ前の景色はなく、**成長率の低下と現地企業の台頭に直面**。さらに国内は、日用品事業売却により足がかりを失う。果たして「**プロ経営者**」**魚谷氏の経営**は成功だったのか...？



(単位：百万円)

長期株価推移

市場概況 > 資生堂

4,285 JPY

+2,669.00 (165.16%) ↑ 全期間

11月14日 13:40 JST • 免責条項

1日 | 5日 | 1か月 | 6か月 | 年初来 | 1年 | 5年 | 最大

